

図書館だよりNo. 20

1999. 1. 5

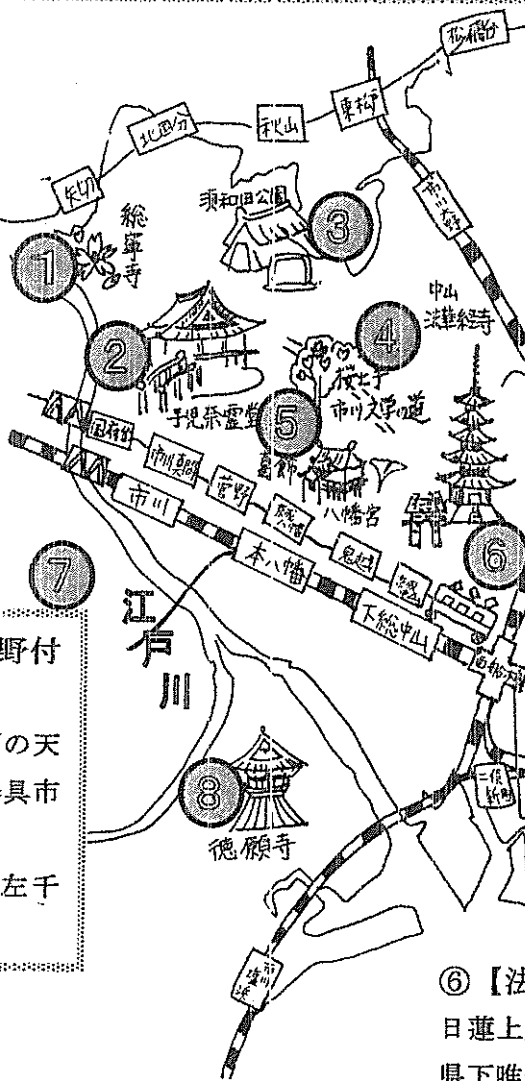
発行：市川市図書館
 編集：広報委員会

① 【里見公園 (桜の名所)】

園内には北原白秋の旧宅「紫烟草舎」や「羅漢の井」「夜泣石」等あり。古戦場跡として、有名です。

② 【手見奈霊堂・継橋】

文亀元年(1501年)に建立。
 二人の男性に求婚され、池に身を投げる美少女・手見奈。…万葉の歌に詠まれている。当時、この辺りは洲で海がそばだったらしい。
 7月の「ほうずき市」が有名。市川駅大門通りに「市川万葉の道」あり。



③ 【須和田公園】

弥生時代から平安時代初めに至る遺跡。
 当時の住居を復元。郭沫若(亡命した政治家)の詩碑あり。
 『日本亡命記』
 『私の幼少年時代他』

④ 【市川文学の道・(桜土手公園)】

桜の季節は美しく、散策にぴったり。道沿いの桜の木の下には市川ゆかりの文学者の紹介板がある。
 (例) 能村登四郎氏・宗左近氏等

⑤ 【葛飾八幡宮・八幡菅野付近】

本殿右側にあるイチョウは国の天然記念物に指定。9月には農具市(ボロ市)が開かれる。
 永井荷風『葛飾土産』・伊藤左千夫『八幡の森』の舞台。

⑦ 【江戸川沿岸】

三島由紀夫『遠乗会』
 中野孝次(市川生まれ)『麦熟るる日に』
 『苦い夏』

⑧ 【徳願寺】

徳川家康の帰依により栄える。
 宮本武蔵の舞台
 ○宮本武蔵等による書画
 ○円山応挙等の筆幽・墨画など有名な寺宝を持っている。
 『葛飾誌略』(江戸時代)によると宮本武蔵は妙典で死んだらしい。

「市川文学散歩」
 もっと市川の文学を知るために!

⑥ 【法華経寺】

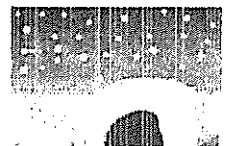
日蓮上人に関する国宝・重要文化財の宝庫。県下唯一の五重塔。
 『立正安国論』『観心本尊抄』

☆市川の文学をもっともっと

知りたい人のために!!

『下総文学のふるさと』・『市川の文学』・
 『近代文学のみち』・『万葉のみち』・
 『文学の散歩道』

※以上の作品は、図書館で所蔵していますので、ご利用ください。



『楽しくて大切な読書』

『楽しくて大切な読書』

中津 伎子

子供のときから乱読で家康・ワシントンなどの伝記。忠臣蔵・新撰組などの歴史。佐藤紅緑などの少年少女小説。岩窟王・鉄仮面・紅はこべ・グリム・アンデルセン・天体の話・探偵・推理小説等、誰もが読む本は全部読もうと、読書三昧の日々を送っていました。

高校、大学と進むと洋の東西、古典、現代を問わず習ったものは全体を読むようにしました。源氏物語の一部を習えば全巻、ハムレットを習えば戯曲全集、他に零の発見、マルクス等、車中でも蒲団の中でも読みました。

やがて人生について考えるようになり、ギリシヤ哲学から実存哲学まで読みあさりしましたが、生とは何かの解決を見つけれず、悶々としていた時に読んだ高神覚昇の『般若心経講義』は私を驚かせました。

この世にあるたった一つの真理は『ものみな移り変わる』無常であり、宇宙のすべてに無常の真理は行きわたっている。この宇宙のありようを仏と呼び、このこ

とに気付いた釈迦も仏と呼ぶと知った私は、釈迦の

「やさしい心をもって生あるものを慈しみ正しくつつましく生きよ」との教えに従うよう生きることを決めた。

人が変わったように明るくなりました。もし私が読書の喜びを子供の時から知っていなかったら戦後の極端な価値観の変動や社会の汚濁に耐えきれずに押しつぶされ、刑務所か精神病院に行つて人生の素晴らしさを知ることなく一生を終わつたはずです。

私は読書していたことで素晴らしい人生を恵まれたのです。ですから誰もが読書の楽しさと素晴らしさを知り、読書好きになってほしい、誰もが短い人生をより輝かしいものにするために本当の自己を生き、

「生きるって素敵だ！」と思える生涯を創造するため楽しみの中の一つにぜひ読書を加えてほしいと願っています。

【中津 伎子氏】東京学芸大学卒、元私立国府台女子学院教諭・NHK文化センター講師。著書「万葉の悲歌」「戦国武田の女たち」「真間の手児奈」「小説松尾芭蕉」他多数。市川市民文化奨励賞・「和泉式部秘話」で中村星湖文学賞受賞。



図書館お薦めの一冊

”『新聞記事』スクラップ”

中央図書館の郷土行政資料コーナーには、千葉日報、朝日、毎日、読売の4紙から市川市に関連した記事を毎日切り抜きして、分類別に綴じたファイルがあります。

市民の方の投稿記事、三番瀬、外環道問題の他、市内の高校の野球試合結果なども切り抜いています。是非、一度手にとってご覧下さい。

尚、1993年1月～1996年12月までは書庫にあります。1993、1994年の記事索引もご活用下さい。

各館で行っているテーマ展示の中からお薦めの本を紹介するコーナーです。中央図書館の1月・2月の展示特集は、『やきもののある生活』です。

- ☆『骨董の器づかい―別冊太陽〈骨董を楽しむシリーズ〉』（平凡社）
骨董を日常生活にとりいれて気軽に楽しむためのシリーズです。他にも『染付の粹』『花の器づかい』などがあります。
- ★『ヨーロッパ名窯図鑑―一流洋食器をたのしむ』（講談社）
食卓の小さな芸術、おなじみのヨーロッパのテーブルウェアが色彩豊かに紹介されています。
- ☆『やきもの買い物紀行』（小学館）
「益子焼」「有田焼」などを探しに出かけてみませんか。日本全国の主な窯場の「買う」「体験する」案内書です。
- ★『家庭でできる簡単陶芸』／堀克巳著（徳間書店）
キッチンで料理をつくるような感覚で気軽に陶芸ができれば。もっと多くの人に陶芸を楽しんでもらいたい、著者のそんな気持ちから書かれた本です。